

ビーム物理研究会・若手の会アニュアルレポート 2016

1. 若手の会名称

ビーム物理研究会 若手の会

2. 代表者の名前、所属機関、職位等

原田寛之(ハラダヒロユキ)、日本原子力研究開発機構 J-PARC センター、研究員

3. 構成メンバー、人数

ビーム物理学に関わる若手研究者・技術者らで構成される。代表者1名、副代表者2名、広報担当者1名、名簿管理者1名、研究会担当者1名などで執行部を構成。

4. 関連のある学協会名称

ビーム物理研究会、日本物理学会 ビーム物理領域、日本加速器学会

5. 若手の会のミッション

ビーム物理は、粒子加速器におけるビーム力学的物性研究を内に含み、ビーム・プラズマ相互作用、ビーム・レーザー相互作用、非中性プラズマ、光子ビーム、イオントラップなどの多様な分野を統合する概念である。様々なビームは、物理学のみならず医学、薬学、工学の学術的研究に加えて、エネルギー、産業利用等の幅広い分野の研究基盤として利用されている。ビーム物理学が支える科学技術の発展を目指し、次世代を担う若手研究者の交流を活発化させることを目的としている。

6. 活動内容

①研究会「ビーム物理研究会 2016・若手の会」の実施

会期：2016年11月24日～26日（内、若手の会：25日PM～26日AM）

主催：高輝度光科学センター(JASRI)

講演数：招待講演3件、口頭発表17件、ポスター発表15件、レクチャ1件

（内、若手の会：口頭発表8件、ポスター発表15件、レクチャ1件）

参加数：37名（内、若手の会：34名）

②「ビーム物理研究会・若手の会」の組織化の提案

日時：2017年3月18日

会場：大阪大学 豊中キャンパス

会議名：日本物理学会第72回インフォーマルミーティング(ビーム物理研究会総会)

参加者数：25名

7. 若手の会の課題

①「ビーム物理研究会・若手の会」の組織化

②体制、会則、活動方針の具体化

8. 若手研究者ネットワークに期待すること

①若手世代の要望の国への提言

②他分野の若手研究者・若手技術者間のネットワーク形成の機会